原発さえなければ

石丸　初美
玄海原発プルサーマル裁判の会代表

玄海原発３号機で０６年２月７日に突然プルサーマル「安全宣言」が新聞一面トップに出ました。私の反原発運動は、その時からです。

それまで毎日子育てと仕事で精一杯、新聞を読む余裕もなく、慌しい毎日。子供の健康を考えて作っていた私流料理も「美味しいー」と喜んで食べてくれた。一日の疲れも吹き飛んだ。皆、社会人となった今、幼い時の家庭料理がもどき料理と解り、「食べ物の話」は、兄妹で笑い話になっています。

そんな４人の子のお陰で、３０～４０代の子育てと仕事で大変な時も頑張れた。０６年は、子供たちもそれぞれ自立、自由になれた頃でした。「子供は３歳までに一生分の親孝行をする」と聞いていました。子育て中は出口が待ちどうしく、しかし出口に出てからこの言葉にうなずけました。

そんな子供達の未来が酷いことになろうと知った時、愕然としました。当時古川知事は「プルサーマルは慎重に」と言い続け、県民の立場に立って判断してくれるものと思っていた人も少なくないと思います。

そんな０６年２月、知事は県民を裏切り、子供達を守る市民の闘いが始まりました。いち早く危機感を覚えた主婦十人が立ち上がってくれました。０５年秋、佐賀市長選挙演説会場で、卒業以来の高校の恩師と偶然再会、恩師もその中の一人でした。十人主催の勉強会に私も参加。原発とは？プルサーマルとは？と初めて聞くことばかりでした。

①原発は原爆と同じ。プルサーマルは長崎原爆の材料と同じプルトニウム
②原発の核のゴミは処理方策が決められていない。
③プルサーマルは科学者間で意見が真っ向から対立
④原発は、実質、佐賀県知事と地元玄海町長の二人だけの判断による。
⑤原発を過疎地に作る訳は、人口密集地には作れないと法律で定められている。
⑥被曝労働者なしでは原発は動かない。
このような話で安心安全な国と思っていた私は、身も凍るような思いがしました。

福島原発は、大勢の被爆労働者が、毎日被曝を覚悟で復旧作業を強いられています。国は、この事実を認め公表し、人権無視の原発は一刻も早く止めるべきです。平和利用ということばで、原発安全神話から放射能安心神話に進化させ、今も尚国民を騙し続けています。

そして、０６年３月２６日（日）二階経産大臣が来佐、古川知事は、私達の声を無視して、「住民の理解は得られた」と事前了解を強行しました。全ては経済優先「お金と命はどちらが大切か」誰でも解かる事、難しい原発の理屈は要らないのです。私達は、何度も議論し住民投票を決意しました。

期間は、０６年１０月３日から２ヶ月間、各地域で座談会を開き、県内各地域に出かけて署名活動をしました。署名は、４９６０９筆（法定数１４０００）を県議会に提出、しかし翌年２月臨時県議会であっけなく否決。理由は、「住民投票は議会の存在を否定する」「プルサーマル住民投票は間接民主主義の逸脱」「プルサーマルは議会が慎重に審議し判断する、県民では総合的な影響を評価できない」県民には判断できないということです。

私達は、会を改め、「プルサーマルと佐賀県の１００年を考える会」として運動を継続。県知事、玄海町、九電に要望・質問書と出し続けました。九電は「企業機密」県と玄海町は「国が安全と言っているから」が答。また全国の人と一緒に国交渉にも参加し、国の答えは「万が一の事故の責任は電力会社にある。九電に安全に作業をやるよう指導しているだけ」驚きの答えでした。３・１１後の交渉では福島の被害を受けて、再稼働はありえないというのが当然と考えますが、国は「頑張るだけ頑張る」が答えです。「国民の命より経済」酷い国です。

０９年１２月２日、日本初玄海３号機でプルサーマルが強行され、危険性は現実的になり、再び裁判という大きな挑戦を強いられました。有志で全国の協力も得、已むに已まれず運動の延長腺上の裁判を決意しました。

１０年８月９日原告１３０人で提訴。奇しくも、３・１１の東日本大地震は、第三回公判の入廷中のことでした。

また、九電、県の不穏な動きを察して、７月７日、２・３号機の再稼働差止め仮処分の請求も急遽提出、前後して、佐賀県のやらせメール問題発生。これは、日本中の原発政策のもたれあいを暴露するものです。

１０月、４号機は人的ミスで自動停止、そして、１１月１日、何の説明もないまま再稼働。1 号機の老朽化の問題。3 号機の放射能帯びた水漏れ事故。次々に起こる佐賀の状況に右往左往、皆、忙殺の日々を過ごしています。

そんな中、福島から避難した方の話で、「佐賀は蛇口の水がそのまま飲めていいですよ」と言われ、水が飲め

る？水・空気・大地の自然がどれだけありがたいことか、私は今まで何も解かっていなかったと気がつきました。
私達は、玄海原発４基全てを止める稼働差止め裁判を１２月、佐賀地裁に提訴します。福島の子ども達の日常生活を奪ってしまった原発事故を電力会社は真摯に受け止めるべきです。私達は一人でも伝えたいと思い、原発の事実を座談会で伝えています。福島の大きな犠牲は原発を止める事でしか学べません。原発は人類を滅ぼします。
子や孫の時代が安心できる世の中であるように。
原発さえなければ佐賀はいいところなのに。
（2011 年 12 月）

玄海原発プルサーマル裁判の会活動の軌跡（2011 年を中心に）

2004 年
4 月　　九電、玄海原発 3 号機でのプルサーマル実施を表明
2005 年
12 月　　佐賀県主催「公開討論会」（2011 年、やらせ・仕込みが発覚）
2006 年
3 月　　古川・佐賀県知事と岸本・玄海町長、プルサーマル事前了解への抗議活動
10 月～12 月　「プルサーマル・大事なことは住民投票で決めよう県民の会」が県民投票条例制定に向けて署名運動
2007 年
2 月　　5 万人の署名を添えて県民投票条例制定を請求するも、佐賀県議会は否決
「プルサーマルと佐賀県の 100 年を考える会」として、あきらめない広報活動再開
2008 年
5 月～7 月　ヨウ素剤配布アンケート、要請活動
2009 年
3 月　「NO プルサーマル佐賀ん会」、NOMOX 人文字フェスタ
5 月　MOX 燃料 16 体の玄海原発搬入に対する抗議活動
10 月　「佐賀ん会」提出の　「プルサーマル実施延期を求める」全国 43 万人署名を添えた実施延期請願、県議会不採択
12 月 2 日　プルサーマル営業運転開始抗議行動
2010 年
2 月 21 日　「玄海原発プルサーマル裁判の会」発足
8 月 9 日　佐賀地裁に提訴
12 月 1 日　第 1 回公判
12 月 2 日　プルサーマル開始 1 年目抗議声明提出
12 月 15 日　3 号機ヨウ素もれ事故、九電本社へ要望書徹底した調査と情報公開を求め要望書を提出
12 月 16 日～　佐賀県、玄海町、唐津市議会、伊万里市市議会、佐賀市議会議長などへ要望書提出
2011 年
１月 20 日　九電本社へ追加質問書及び眞部社長に対する「要望書」を提出（36 団体）
2 月 22 日　やっとのことで九電と交渉実現
3 月 1 日～ヨウ素もれに関する請願書を市町議会へ提出
3 月 11 日　第 2 回公判　　＜東日本大震災・福島原発事故＞街頭カンパよびかけ
4 月　統一地方選挙候補者へのアンケート調査
4 月 28 日　藤田祐幸氏講演会（唐津市）
５月８日　原発サウンドデモＩＮ福岡（警固公園）
５月 17・18 日　全九州行動・九電交渉（260 団体）
５月 18・19 日　菊地洋一氏講演会
6 月 1、10、21 日　古川知事へ「住民説明会開催」要請行動
6 月 5 日　広瀬隆氏講演会・活動報告会
6 月 6・7 日　田中優氏講演会（唐津市、伊万里市、糸島市）
6 月 24 日　知事要請行動　知事に面会求めて県職員によるバリケードと対峙
6 月 26 日　国主催「住民説明会」（ぶんぶんテレビ＝やらせの舞台）抗議行動
6 月 28 日　九電株主総会・デモ
6 月 29 日　海江田・経済産業大臣の県知事・玄海町長面会への抗議行動
7 月 5－10 日　広河隆一氏「チェルノブイリ、フクシマ写真展」
7 月 7 日　玄海 2・3 号機再稼動差止仮処分申立て
7 月 8 日　「住民がつくる玄海原発説明会」（菊池洋一氏、藤田祐幸氏、小山英之氏、豊島耕一氏、戸田清氏）
7 月 11 日　県庁包囲行動
7 月 17-18 日　緊急シンポジウム「玄海原発は『安全』か？」（井野博満氏、小山英之氏）唐津・佐賀
7 月 20 日　九電本店へ「やらせ」抗議と緊急署名（脆性劣化問題）提出
7 月 22 日　第 3 回公判＆仮処分審尋、報告集会　　裁判の会事務所開き
7 月 26 日　知事へ「脆性劣化問題専門家会議」要請と「安全対策に関する質問状」提出行動
7 月 29 日　「原発さよなら署名」提出上京行動と政府交渉
8 月 11 日　知事へ「県民への謝罪と、玄海原発全炉の停止を求める要請」「安全性説明責任に関する質問書」提出行動
8 月 30 日九電交渉
9 月 11 日　脱原発佐賀行動・デモ
9 月 6 日　佐賀市教育委員会に給食問題要請行動
10 月 3 日　2005 年県主催公開討論会に関して佐賀県へ申入れ

10 月 21 日　第４回公判・第２回審尋　デモ
11 月 2 日　玄海 4 号機運転再開抗議・全国５ヶ所同時行動
11 月 9 日　九電交渉
11 月２１日-29 日　1 号機脆性劣化問題で佐賀県全市町に要請
11 月２５日　『あれから２年、さよならプルサーマル１２・２緊急佐賀行動』デモ、脆性劣化問題で県知事要請行動
12 月 6-8 日　武雄市と周辺市町６市町へ瓦礫受け入れ拒否の要請行動
12 月１７日　肥田舜太郎氏講演会